

## 第 625 回 新潟放送番組審議会 議事録

### — 議題 —

テレビ番組

「日本のチカラ 第 80 回 カミフルへようこそ  
～まるで絵本のような商店街～」



平成 29 年 3 月 22 日

**BSn新潟放送**

## 第625回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成29年3月22日（水）午前11：00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委 員	相 羽 利 子	委 員	古 賀 豊
委 員	正 道 かほる	委 員	高 木 言 芳
委 員	服 部 誠 司		

○委員側リポート提出(敬称略・順不同)

委 員	小 島 良 子	委 員	細 田 康
-----	---------	-----	-------

○委員側欠席者

委 員	池 田 幸 博	委 員	佐 藤 元
委 員	小 原 清 文		

○放送事業者側出席者

社 長	竹 石 松 次	営業本部長	斎 藤 和 利
放送本部長	島 田 好 久	編成局長	増 山 由美子
情報センター長	大 竹 正 敏		

<説明員> 放送本部情報センター テレビ制作部 ディレクター 高 橋 紗 子

事務局出席者

事務局員 和 田 司 (広報部長)

4. 議 題

1 報告事項 4月の新番組、単発番組について (各局長)

2 審議番組 テレビ番組「日本のチカラ 第80回 カミフルへようこそ  
～まるで絵本のような商店街～」  
(2017年2月12日(日) 5時45分～6時15分放送)

## 5. 議事の概要

審議会のはじめに、竹石社長より 3 月 1 日付人事異動をうけ、放送事業者側メンバーの変更が説明された。

次に各局長からの 2017 年 4 月度番組報告に続いて、テレビ番組「日本のチカラ 第 80 回 カミフルへようこそ～まるで絵本のような商店街～」について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- 主人公を中心に良い連鎖がおきて、商店街が元気になっているところを捉えている。率直な感想として“カミフルにあんなに人がいるんだ”と驚いた。主人公は大学卒業後、16 年をかけて街作りに尽力しているが、「人と同じことが嫌い」という人物だから、こうした活動が出来たのではないか。「かわいい＝ストロングポイント」という主人公の感性のもと、既存の商店に対して商品開発を促す姿を見て、こうした感性が今の世の中のかなと勉強になった。ただし、昔のカミフルはもっと賑わっていた。主人公の思い描く最終到達点はまだ先だと思われるが、今後の取材はどう考えているのか？
- テーマが“街の再生”というと見る側も構えてしまうところがあるが、パッと見て“軽くて軽快”な印象をうけた。いいかどうかは別にして、30 分の尺で重たいテーマを軽く表現することで、小粒だけど鮮烈な味に仕上げていて、これはこれでよい番組だと思う。高齢化や人口減少が進む中、地域から発信する力が問われている。こういった取組みが統けば“心配ないのでは？”と思わせる作りであった。一方、土曜早朝の放送ということを考えると、番組の告知をしっかりとやることや再放送する努力を求める。
- “古さの中に新しさが混じっている”ということはよく伝わってきた。商店街で行われた、幾つかのイベントを中心構成し、30 分番組としてよくまとまっていた。ただ、実際にカミフルを知る者としては、普段は閑散としていて、人通りもあまりないと印象も受ける。“明るくてキレイな商店街”というまとめ方をしていたが、現実を知る者としては疑問に思うところもある。意図的に“暗さ”をださなかったのか？あえて寂れた街だったことを描くことによって、変化を対比したほうが良かったのではないか。また、副題に「絵本のような商店街」とあるが、どういうことなのか、よくわからなかった。
- 取材する側と取材される側の関係が良いことが伝わってくる番組だった。  
夏から年明けまで、時間をかけて取材して作られていてよかったです。  
主人公のことは、主人公が学生時代の頃から知っているので客観的には見られなかつた。

- ドーナツ現象など、全国で抱えている問題が凝縮された番組だった。「再生」していくだけでなく、「創造」していくことの大切さを訴えている。主人公は九州出身だが、そうした外から来た人を商店街が受け入れているというか、受け入れざるを得ない状況に時代の変わり目を感じた。

～新潟放送 放送本部情報センターテレビ制作部 高橋紘子ディレクターから～

- 貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。今回の番組の主人公については、以前、別の番組で取材した際、主人公のデザイン力に惹かれたことがきっかけで、再び取材する機会をうかがっていた。取材を通じて、主人公の“人を巻き込んでいく力は凄い”と改めて感じた。各種イベントなど楽しいシーンを中心にしながら主人公や周りにフォーカスをあて、様々なメッセージを表現したつもり。勿論、取材の過程で“商店街での衝突”もあったが、今回はあえて番組には盛り込まなかった。委員からの意見をうけ、もう少し主人公が苦労した場面も盛り込めば良かったのかなと思う。「まるで絵本のような商店街」という副題については、主人公が絵本作家になりたかったということを知っていたこともあり、サブタイトルとした。今回いただいた意見は今後の番組作りに生かしていきたい。

---

【文責・番組審議会事務局】